

2021年度 事業報告

2021年度も昨年度に続きコロナ禍の影響を大きく受け、舞鶴国際交流協会にとっても事業展開の非常に厳しい年度となりました。一年のうちほぼ半分、5カ月強を「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」下で過ごし、外国との国際交流事業は全て見送りとなり、唯一、当地舞鶴で展開可能である各語学教室展開、各部会の交流事業も計画していたものよりほぼ半減となりました。財務的にはコロナ対応の公的援助金により乗り切れましたが、協会本来の目的である交流事業にとっては非常に厳しいと年度となりました。

会員数に関しては、新たに2名の方が入会されましたが、転勤・引越し等により退会が数名あり、2022年3月31日現在にて正会員は75名、内訳は個人会員71名・団体会員4団体・家族会員4名、前年度比では総勢で7名の減少となりました。

冒頭に述べました如く厳しい環境下にはありましたが、「可能な範囲で出来るだけやろう」との思いでご参集頂いた各部会のメンバー、語学講師ボランティアの皆さまのご尽力のお蔭で、語学教室展開、在住外国人の方々との交流事業は最低限の継続をすることが出来、当協会のメインテーマである「多文化共生社会の推進」を一歩づつでも推し進めることが出来た事と思います。

自主事業の柱となる語学教室では、「英語教室(2コース)」、「ロシア語講座」、「初めての中国語会話」を継続展開しました。これらに加えて「初めての韓国語」講座も2021年4月より開講することが出来、これにより友好関係にある4ヶ国全ての言語を学ぶ場を提供する事が出来ました。

各部会も可能な範囲で積極的に催しを企画/展開しました。コロナ禍への対策上、人数制限等実施諸条件に制約がかかったものの工夫をこらし事業を展開しました。この経験は2022年度以降の活動にも生かされることと確信しています。コロナ禍に翻弄され続ける当年度でしたが、その制約の中で推し進めてきた「多文化共生社会の推進」マインドを2022年度以降も着実に育てて行きたいと思っております。

MIA事業のもう一本の柱である受託事業は5事業(詳細別記参照)を予定していましたが、世界的なコロナ感染症拡大の影響を受け、ここ舞鶴で継続展開をする、「多文化共生社会推進事業」と「中国残留邦人に対する支援」、この2事業のみ実施することが出来ました。

「多文化共生社会推進事業(日本語教育)」は、文化庁の助成事業が2020年度に終了し、2021年度は舞鶴市からの受託事業として従来の「MIAにはんご教室」「日本語支援ボランティア養成講座」「スキルアップ講座」を実施しました。「日本語支援ボランティア養成講座」は初めての現役ボランティア講師による講座でしたが、多くの新規ボランティア登録を得ることができ、熱心に活動に参加しています。ただ長引くコロナ禍の中で地域行事が中止になり、多文化交流活動が停滞したことは残念でした。

また「中国残留邦人に対する支援」は2名の在舞鶴残留邦人の支援を実施し、定期訪問/生活相談及び病院での通訳等を実施しました。

決算概況は、2020年度同様コロナ禍により、大きな収入源となる海外との交流事業が出来ず受託事業での収入の確保が出来ませんでした。同様、自主事業に関しても度重なる「緊急事態宣言」と「まん延防止等重点措置」の発令により、ほぼ5カ月間に渡り語学教室を休講せざるを得ず、予算比48%の実績となりました。

一方、コロナ禍の下の救済策として、経済産業省よりの一連の支援金を享受する事により、なんとか当期を乗り切ることが出来ました。最終収益は669,854円(予算比196万円増)の黒字となり、2022年度への繰越金は4,482,947円となりました。

管理費、労務費は事業活動に制限がかかった為、共に予算比約80%となり、ほぼ昨年度並みの実績で終えることができました。

2021年度実施事業(2021年4月1日～2022年3月31日)

主務 部会	事業名	事業内容	実施期間	実施状況
受 託 事 業	大連市少年使節団受入事業	舞鶴市と大連市は、少年使節団の相互派遣(隔年)を通じて、次代を担う両市青少年の交流を促進している。本年は大連市少年使節団を舞鶴市に受け入れ、各種交流事業を実施する。	未実施	コロナ感染症拡大により中止。
	舞鶴市青少年交流訪問団 浦項市派遣事業	舞鶴市の小・中学生少年使節団を浦項市に派遣。文化の理解促進を図ると共に、舞鶴市の児童の国際理解を促進し、将来の両市の友好を担う国際感覚豊かな人材の育成を図る。	未実施	コロナ感染症拡大により中止。
	ポーツマス市訪問青少年 英語研修事業	舞鶴市内中・高生を英国での英語研修に派遣。ホームステイ経験によって、英語力の向上と共に、国際的視野を持った若い世代の育成を図る。	未実施	コロナ感染症拡大により中止。
	多文化共生社会推進事業	舞鶴在住外国人が日本語能力を習得できるよう「にほんご教室」の開催や情報発信を通じて、相互の文化を認め合い、多文化共生社会の実現を目指す。	通年	・ボランティア養成講座:3回(計10時間) ・にほんご教室:年間26回 ・スキルアップ講座:年間11回 ・外国人市民への防災訓練/新年交流会
	中国残留邦人に対する支援	舞鶴在住の中国残留邦人への中国語による生活相談・支援。家庭での市職員との会話や病院での医師との同時通訳を行う。	通年	定期的に訪問し、生活に関する相談、家庭や病院での通訳等に当たった。

主務 部会	事業名	事業内容	実施期間	実施状況
事 務 局	英会話教室	「GoSpeak English」(外国人講師による)と初級英会話教室(長期在米経験者)の2本立てで展開。	通年	毎水曜日19:00-20:30、生徒10名 毎金曜日18:30-20:00、生徒8名
	初めての中国語会話	2021年1月より、友好都市である中国/大連出身の講師による会話力重視の講座。	通年	毎木曜日19:00-20:30 生徒数 8名
	ロシア語講座	舞鶴市国際交流員(ウズベキスタン国籍)による初級者向けの講座。	通年	毎火曜日19:00-20:30 生徒8名
	初めての韓国語講座	初歩から始める講座で基礎をしっかりと身につけて、2年間で韓国旅行に行けるようになるのを目標に!	通年	毎月曜日19:00-20:30 生徒6名
	通訳・翻訳	5カ国語(英語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語)による通訳・翻訳業務を提供。	通年	一般市民よりの依頼に依り住民票、戸籍謄本等の翻訳3件実施。
自 主 交 流 部 会	座禅体験	外国の方と、宗教儀式ではあるが一般人も気軽に参加できる「座禅」を一緒に体験し、その体験の共有を通して相互に異文化を学ぶ機会とする。	6月	外国人4名を含む総勢13名で実施。正座をして迷いを取り、悟りを求め、精神を統一。外国人・日本人共に自分自身を見つめる良い機会となり、貴重な経験を共有できた。
	英語で落語	舞鶴市母子福祉会の要望により、日本の伝統文化である落語に親しみながら、「英語で落語」を通じて外国の方と子供達との交流を図る。	7月	約20名の子供達が参加。「落語で英語」を聞いた後、参加者全員が漫才形式による小唄の発表を行い、交流を楽しんだ。
	日本の伝承遊び	日本で昔から受け継がれてきた子どもの遊びを体験することにより、外国の方々に日本の伝統文化をより身近に感じていただくきっかけとする。	7月	14名(内7名、外国人)参加。伝承遊びの数々は、外国人にはたいへん興味深いものであり、参加者から高い評価を得ることができた。大好評でした!
	講演とお茶でおしゃべりしながら海外を学ぶ	渋谷節子氏をお招きし、「多文化共生社会の実現に向けた課題と対応」についての講演会を行い、地域社会での取組方を考える。	10月	65名(内学生9名)参加。講演の後6グループに分けて討論会を実施。活発な意見交換が行われ、グループ毎に発表を行った。
	フレンドリーサークル部会	イングリッシュカフェ	ネイティブと英語でおしゃべりを楽しみ、また、彼らの母国について学ぶ機会とする。	11月
	フィリピン料理教室	料理を通して、フィリピンの食文化を学ぶ。(タガログ語も少し教えてもらう。)	11月	参加者25名。使ったことのない調味料と食べたことのない食感を楽しめたと好評。
多 文 化 共 生 部 会	在舞外国人生活相談・支援	在舞鶴外国人の生活相談や支援。	通年	「にほんご教室」を通して、受講者の生活相談に応じた。
	「やさしい日本語」講座	京都府国際センターとの共催により、外国人を受け入れる側としての日本人の多文化共生の人材育成を図る。	11月	・講座:3回(内1回は、「MIAにほんご教室」ボランティアが講師を勤めた。 ・参加者:14名

